

技 術 資 料

技 資 第 1 2 9 号

スリップオンタイプ終端箱の
施工スペースについての技術資料

2 0 0 1 年（平成 1 3 年） 5 月 制 定

社団法人日本電線工業会
（電力ケーブル専門委員会）

スリップオンタイプ終端箱の施工スペースについて

1. まえがき

スリップオンタイプの終端接続箱は機器の現場組立時の塵埃の影響を低減するため、ブッシングまでを機器メーカーで組立出荷し、現場でケーブル終端部を挿入するタイプのもので 154kV 級まで実用化されており、その需要は増加傾向である。

しかし、施工面では納入者であるケーブルメーカーと最終ユーザーや機器メーカーとの施工スペースに関する事前調整ができていない場合がある。

スリップオンタイプの終端箱施工においてはケーブル端部をエポキシ罫管に挿入する前に、必要長の直出し作業を行なっているが、十分な施工スペースがとれない場合、ケーブルを直線状に維持したまま、挿入することが困難となったり、ケーブル立上げ部で無理な曲げが加えられることが懸念される。

よって上記のような不具合を防止するためには施工スペースの確保が必要である。

そこで、本資料は 66～77kV 線路に使用する CV ケーブル用スリップオンタイプ終端箱の施工スペースについてとりまとめたものである。

2. 対象品

終 端：66～77kV CV ケーブル用スリップオンタイプガス中終端箱及び油中終端箱を対象とする。
(添付図面参照)

ケーブル：66～77kV 単心 CV ケーブル及び CVT ケーブル
(添付構造表参照)

ケーブルと終端の構造については電力用規格を引用している。

3. 施工スペース

ケーブル立上げ部のケーブル処理室の必要最小寸法を表1に示す。

表1 施工スペース検討結果 (単位 mm)

ケーブル G	66、77kV CVT ケーブルの場合 (77kV CVT 3×600mm ² にて計算)		66、77kV CV ケーブルの場合 (77kV CV 1×2000mm ² にて計算)	
	L	H	L	H
200	2900	1800(*1)	4600	2200
400	2750	1800(*1)	4500	2200
600	2500	1800(*1)	4400	2200
800	2200	1800(*1)	4250	2200
1000	1750	1800(*1)	4150	2200
1200			3950	2200
1400			3750	2200
1600			3500	2200

(*1)の値の1800mmは作業者の施工性を考慮した寸法であり、計算値は本値より小さくなるが1800mmを採用する。

ケーブル布設状況

—— 最終布設後

-- 挿入作業時

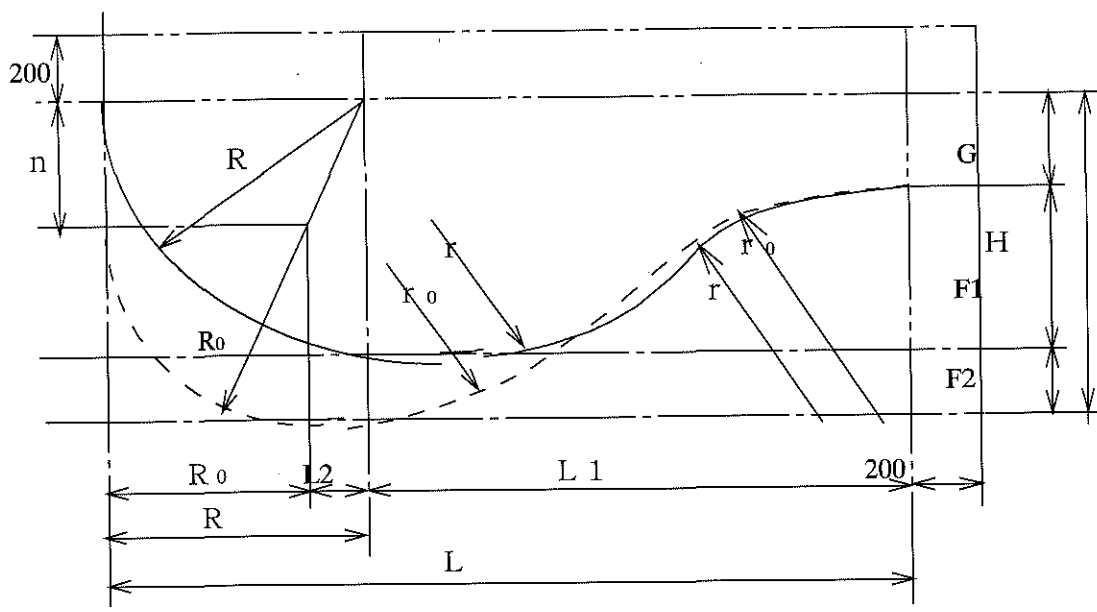


図1 検討モデル